



「第7回 日本TRIZシンポジウム 2011」の一般発表の募集について
兼 最終原稿の提出要領

2011年2月21日 [追記: 2011年6月13日]

NPO法人 日本TRIZ協会

第7回 日本TRIZシンポジウム 2011

プログラム委員長 中川 徹 (大阪学院大学)

創造的な技術革新の技法「TRIZ」について、広く発表・討論・交流するために、NPO法人日本TRIZ協会が主催して、第7回 日本TRIZシンポジウム 2011 を開催いたします。つきましては、一般発表を下記のように公募いたしますので、どうぞ積極的にご応募くださいますようお願いいたします。

[注: 青字の部分は、昨年度のやり方から変えている部分、または特記部分です。ご注意ください。]

このたび、一般発表 32 件 (うち、海外 8 件) を受理し、招待の講演 8 件と合わせて、第一次のプログラム案を編成しました。第震災後の困難な状況に関わらず、発表をお寄せ下さいました国内・海外の皆さまに厚く感謝いたします。下記に記述しております要領に従い、最終原稿を提出いただき、発表のご用意をいただきたくお願いいたします。[2011. 6.10] (追記・改訂部分は赤字)

目次

1. 第7回 日本TRIZシンポジウム 2011 の概要
2. 一般発表 (オーラル発表とポスター発表を含む) の募集テーマ
3. 一般発表の申込み手続きについて (オーラル発表とポスター発表ともに、すべて共通)
申込みの際に提出するべきもの、発表に関する著作権の扱い、発表申込みの提出
4. プログラムの決定と著者への通知
5. 発表の形態と論文集等の作成の計画について (最終原稿提出のための予備知識)
オーラル発表の実施形態、ポスター発表の実施形態、Proceedings (論文集)、スライドなどの翻訳作業について
6. 最終原稿の提出について
オーラル発表の場合、ポスター発表の場合、最終原稿の提出方法と締切
7. シンポジウム当日の発表スライドとポスタースライドについて
オーラル発表の場合、ポスター発表の場合
8. 準備組織と問い合わせ先

記

1. 第7回 日本TRIZシンポジウム 2011 の概要

日時： 2011年 9月 8日(木) ～ 10日(土) (3日間)

会場： 東芝研修センター (横浜市港北区鳥山町 555、
JR(新幹線&横浜線)新横浜駅 (西へ 徒歩 20分))

主催： NPO法人 日本TRIZ協会 (理事長: 林 利弘 (林技術士事務所))

目的： 創造的な技術革新の技法「TRIZ」とその関連分野での発表・討論・交流の場を提供する。
TRIZ に関して、その技術レベルの向上と普及・推進・適用のしかたの向上に資する。
日本と世界の TRIZ 関係者の交流を図り、TRIZ の理解と普及を促進する。

ねらい： 発表および参加を広く(国内・海外から)公募し、公開の会とする。
TRIZ のより深く広い理解を作るとともに、企業や大学などにおける実践を推進する。
特に、中小企業を含めた企業ユーザの底辺を広げ、また学校教育などへの導入を図る。
基本的には国内向け(全国的)であるが、部分的に(できるだけ多く)国際的なものにする。
会期中にNPO法人 日本TRIZ協会の総会を開く。

重点テーマ： 主題 「個人と組織のイノベーション力向上を！」
Creative Person, Innovative Organization !

- (1) TRIZ の技法の発展とその技術課題適用事例
- (2) TRIZ の適用と推進のしかた、特に技術開発の諸段階での効果的適用法
- (3) 日本および世界における TRIZ 推進の状況

公式言語： 日本語 および 英語

オーラルの発表は、和文と英文のスライドを並行投影することを基本とする。

ただし、一部は和文スライドのみ投影するオーラル発表もある。

発表には通訳(同時通訳/逐次通訳)なし。

討論時には、和英スライド同時投影のオーラル発表について通訳サポートあり。

当日資料は、概要集(日本人向けと海外参加者向け)と USB 論文集(和・英両方)を
全員に配付する。印刷の論文集は、有料申込み制。

プログラム構成骨子： 下記の図のような構成に~~する予定で~~決定しました。

| | 第1日 9/8 (木) セミナーの日 (A) (B) | 第2日 9/9 (金) コンファレンスの日 (C) | 第3日 9/10 (土) |
|----|--------------------------------|------------------------------|---|
| | (A) セミナー (日本語トラック) | (B) セミナー (英語トラック) | 8:30 日本TRIZ協会 総会 |
| 午前 | 10:00 チュー トリアル 12:00 | アドバンス トセミナー | 9:00 プレセッション 10:00 開会挨拶 基調講演 1件 12:30 一般 オーラル発表 2件 |
| 午後 | 13:00 テーマ 講演 5件 17:40 | アドバンス トセミナー(続) | 10:00 特別講演 1件 一般オーラル発表 4件 (ダブルトラック) 12:50 13:30 ポスター発表(6件)とデモ 一般オーラル発表 8件 (ダブルトラック) 18:20 |
| 夕方 | 18:00 夕食 21:00 | (A) (B) (C) 参加者合同 グループ討論 | 13:50 ポスター発表(6件)とデモ 一般オーラル発表 6件 (ダブルトラック) 17:50 閉会 参加区分 (A) セミナー(日本語) 第1日 (B) セミナー(英語) 第1日 (C) コンファレンス(日本語&英語) 第2-第3日 |
| | | 18:40 夕食 & 交流会 20:40 | |

このプログラム構成の趣旨は以下のようです。

- (a) 第1日を「セミナーの日」とし、初心者向けのチュートリアルを午前に、初心者にも経験者にも関心が高い大事なテーマ(5件)での解説と討論を午後に、日本語トラックとして行う。一方、TRIZ 経験者および海外参加者向けにアドバンストセミナーを午前・午後に英語トラックとして行う。
- (b) 第2日と第3日を「コンファレンスの日」とし、講演(基調講演、特別講演)、一般研究発表(オーラル発表とポスター発表)、夕食&交流会、日本TRIZ協会総会などを行う。
- (c) このように特徴づけた日程とし、全日程参加だけでなく、1日あるいは2日間の部分参加をもしやすくして、より多くの人が発表・参加・交流できることを意図している。

一般発表の発表形態(予定):

- オーラル発表: 基本発表時間: 発表 30分 + 質疑応答 10分。
通常ダブルトラック(2会場並行)
- ポスター発表: 会場内のコーナーに分散して、複数同時並行で掲示・発表する。
比較的少人数での自由な質疑応答可能。全日程掲出の予定。
ポスター紹介セッションを設け、全体会場で、各人3分で概要紹介する。
ポスター発表の時間は(紹介を除くと) 50分程度。全日程ポスター掲出予定。

主催者企画(基調講演、チュートリアル、テーマ講演、セミナーなど): [詳細はホームページ参照。](#)

基調講演: Simon Litvin 氏 (TRIZ マスター、GEN3 Partners、米国)

"Main Parameters of Value: TRIZ-based Tool Connecting Business Challenges to Technical Problems in Product Process Innovation"

特別講演： 「等価変換理論の紹介」 鈴木俊介 ((株) 経営技法)

チュートリアル： 初心者のための TRIZ の基本 (全般的)

テーマ講演： 初心者にも経験者にも分かるように、重要なテーマを 5 件程度。

アドバンスセミナー： TRIZ 経験者および海外参加者向け。英語トラック。

(明確になり次第、Web などでご案内いたします。)(4月14日に掲載済みです。)

2. 一般発表 (オーラル発表とポスター発表を含む) の募集テーマ

上記のシンポジウムの趣旨に沿った、オリジナルな研究・活動報告を募集します。

主要テーマ：

- 商品企画のための TRIZ の活用
- 問題解決のための TRIZ の活用
- リスク回避のための TRIZ の活用
- ソフトウェア、IT のための TRIZ の活用
- ビジネス分野のための TRIZ の活用
- 知的財産の創造・強化のための TRIZ の活用
- 企業における TRIZ の推進、マネジャのための TRIZ 理解
- 学校・大学・社会における TRIZ をベースにした教育
- その他

テーマ範囲： 下記一覧のような範囲で広く捉えて下さい。

| 技法など | 適用目的 | 適用分野 | 適用場面 |
|--|--|---|---|
| TRIZ TRIZからの派生・発展 創造性技法、 アイデア生成法、 問題抽出技法、 問題解決技法、 将来予測技法、 技術革新技法・運動、 技術管理、知識管理、 研究開発技法 知財生成・知財分析、 技術の実装技法、 問題解決支援システム、 日本独自の諸方法 など | 技術予測・市場予測、 問題抽出、 商品企画開発、 技術課題の解決、 技術コンセプトの生成、 品質向上、 コスト・納期削減、 エコシステム、 知財発掘、知財強化、 ビジネスモデルの創成、 ビジネス・技術戦略 技法の検証、 創造性教育・訓練 など | 一般技術分野 機械・機構系、 電気・電子系、 システム系、 ソフトウェア系、 材料系、 化学系、 生物系、 ビジネス系、 社会問題、 身近な問題、 教育 など | 大学等教育、 技術者教育、 普及・啓蒙、 適用試行、 グループ活動、 実地適用、 推進組織化、 推進活動、 R&D 全般、 管理者教育、 中小企業普及、 初等中等教育、 など |

3. 一般発表の申込み手続きについて (オーラル発表とポスター発表ともに、すべて共通)

3.1 申込みに際して提出するべきもの

電子メールにて、下記の書式 3 件を提出下さい。

0. 申込みメール: 「発表申込み」を件名に明記し、下記の 3 件の書式を添付下さい。

A. 発表申込み書: 書式 A による。MS Word .doc 形式。テンプレートを Web に掲載。

発表題目、著者 (所属)、著者代表連絡先、

関連テーマ分野、キーワード

希望発表形態 (オーラル発表のみ、オーラル発表優先、ポスター発表優先、ポスター発表のみ)、

英訳の有無/可能性/英訳支援希望の記述、著作権の譲渡に関する確認事項。

B. 和文概要: 書式 B による。MS Word .doc 形式。テンプレートを Web に掲載。

発表題目、著者 (所属) (共著者を含む)、

200 字程度の概要、説明文 (図表も可)、全体で A4 の 1 頁。

(注: 題目・著者・概要、は事前プログラムに掲載する。

説明文はプログラムの審査・編成に用い、開催時に公表する。)

C. 英文概要: 書式 C による。MS Word .doc 形式。テンプレートを Web に掲載。

英文の発表題目、著者 (所属) (共著者を含む)、英文概要。全体で A4 半頁。

(注: 英文での事前プログラムに掲載する。)

3.2 発表に関する著作権の扱いについて

(再度ご確認ください [2011. 6.10])

前提事項: 発表申込みおよび発表資料の提出時点において、発表者はその内容が他者の著作権などを侵害していないことを確認し、また社内の発表許可などを経ているものとします。

発表時期: 発表資料の公表時点はシンポジウム初日 2011 年 9 月 8 日とします。

著作権: 発表資料の著作権は、著作者本人にあるものとします。

よって、著者は TRIZ シンポジウムの後に、自分が適切と考える方法で、他に投稿・発表などができます。

著作権の譲渡: 発表者は、以下の事項に対して「NPO 法人日本 TRIZ 協会」に、非排他的な権利を譲渡するものとします。

- ・ 「第 7 回 日本 TRIZ シンポジウム 2011」での当日配布の印刷資料に印刷し、配布すること。
- ・ 「第 7 回 日本 TRIZ シンポジウム 2011」で、当日配付の USB 媒体資料に収録し、配付すること。
- ・ また、上記の印刷資料および USB 媒体資料の複製を後日配布・販売すること。
- ・ 日本 TRIZ 協会が適切と考える Web サイト (複数可) で後日公開あるいは限定開示すること。
- ・ 発表状況の (主催者による) スナップ写真撮影を許可し、それらを日本 TRIZ 協会が適切と考える方法で、掲載、配布、案内資料などに使うこと。

[注: 主催者指定の者以外(一般参加者など)による、投影画面の撮影を禁止します。また、録音も禁止します。これらは発表者の自由な発表を守る処置です。] [2011. 6.10]

3.3 発表申込みの提出

提出・問い合わせ先: プログラム委員会: 委員長: 中川 徹 (大阪学院大学)
副委員長: 小西 慶久 (創造開発イニシアチブ)

送付方法: 電子メールで文書添付 (MS Word)

宛て先: 電子メールアドレス: sympo@triz-japan.org

申込み締め切り: 2011年5月17日(火) 18:00 延長 5月24日(火) 18:00。[締切済みです]

[注: すでに締め切り済みですが、つぎの条件で極めて限定した数のものを受け付けます。]

- (a) 正規の申込み書式に従って、書式 A、B、C を 7月5日(火) 18:00 までに提出のこと。
- (b) 最終原稿を正規締め切り 7月25日(月)18:00 までに提出すること。
- (c) 受理の可否、およびオーラル/ポスター発表の別は、当方に一任する。
- (d) 受理の可否、発表区分、発表時間帯などについては、7月8日に TRIZ 協会で決定し、すみやかに各申込み者に伝える。
- (e) 企業等における実地の TRIZ の適用、推進事例などを特に期待する。
- (f) 希望者は sympo@triz-japan.org (担当:中川) まで至急照会下さい。(追記:2011. 6.10)

4. プログラムの決定と著者への通知

採否決定: 発表の採否とプログラム案の決定は、
5月下旬~6月上旬に日本TRIZ協会プログラム編成会議および同運営会議にて行います。

オーラル発表とポスター発表の別は、申込み時の希望を考慮しつつ、
プログラム編成会議で調整・決定いたします。
申込み時の第一希望とは異なる場合もありますが、ご了承下さい。

発表申込みについて、不採用の判断をする場合もあります。
また、特に、申込みが多くなった場合には、運営上、数を制限させていただく
ことがあります。

著者への通知: 発表申込みの受理は、受け付け後 3日以内に個別に連絡します。
メール送付から 3日過ぎてもプログラム委員会から返信メールが届かない
場合には、お手数ですが再送付下さい。
発表の採否およびプログラム案を、6月13日頃に通知します。
採用された著者は指示に従って、原稿を次項のように準備下さい。

プログラムの発表: 編成したプログラム案を TRIZ 協会の公式ホームページ他に掲載し、
参加者募集を行います(6月13日頃)。和文と英文を同時掲載します。
この段階で、発表の題名、著者(所属)、概要 を公表します。
(和文概要につけた説明文の部分は、この段階では公表しません。)

5. 発表の形態と論文集等の作成の計画について（最終原稿提出のための予備知識）

詳細の一覧表は別紙を参照下さい。

5.1 オーラル発表の実施形態

- ・ 発表は（日本人の場合には標準的に）日本語。（海外参加者は英語で発表）
- ・ 日本語スライドを主画面に投影し、同時に副画面に英文スライドを投影する。[これが基本]
日本語スライドは発表者が操作し、英文スライドは追隨して事務局が操作する。
- ・ なお、日本語スライドだけを投影するオーラル発表をプログラム編成時に認めることがある。
- ・ 発表自体の通訳（英語への通訳）は行わない。
討論については、スライドの和英並行投影の発表に限って、双方向に逐次通訳する。
- ・ 発表 30 分 + 討論 10 分とする。（予定） **【特別講演、テーマ講演は、別途連絡済み】**
- ・ 通常 ダブルトラック（2 会場並行）。[発表数が多い場合には、3 会場並行の場合もある。]

5.2 ポスター発表の実施形態

(a) ポスターの掲出作業

- ・ 各自に模造紙 2 枚（縦型で横に並べる）のスペースが与えられる。
これを会場内の指定された壁面または移動式パネルなどに貼り出す。
- ・ 和文と英文の両方でポスターを掲示する場合には、最大 4 枚分のスペースとする。
[注：ポスター発表では、日本語のポスタースライドだけでもよい。]
和・英両方で掲示すること希望する場合には、最終原稿提出締切時にその旨申請すること。
- ・ この模造紙スペースに、各自がプリントして持参してきたスライドを貼り出す。
A4（または B4）にプリントしたスライドは 8 枚／模造紙 貼れる。十分大きな字にすること。
- ・ 掲出は基本的に初日午前中に各自が作業して行い、全日程掲出しておく。
模造紙、糊、セロテープ、マジックインキなどは事務局が用意する。

(b) 「ポスター紹介」セッションでの発表

- ・ 各ポスターセッションに対して、その「紹介」セッションを持ち、全体会場で話す。
- ・ 紹介セッションでは、各自 3 分間で簡単な紹介を行う。（全体で 25 分未満の予定）
- ・ この紹介では、スライド 2～4 枚（だけ）を使う。**和文・英文スライドを同時投影する。**

(c) ポスターセッションでの発表と討論

- ・ 発表者は各自指定された壁面/場所で、ポスターの説明を行う。複数件（6～8 程度）の同時並行。
- ・ 参加者は、それぞれに選択したポスターを順次訪問する。
- ・ 全体時間は（ポスター紹介セッションを含めて）、80 分程度。
- ・ 初回の説明と討論を 20 分で一斉に区切り、2 回目の説明を開始する。
それ以降は臨機応変で随時に発表と討論を行う。（なお、この詳細は今後変更することがある。）
- ・ 比較的少人数でのインタラクティブな発表と討論を行うことが趣旨である。

5.3 Proceedings（論文集）（当日の印刷配布物、USB 媒体配付物、後日の Web 掲載）

5.3.1 「コンファレンスの日」（第 2 日、第 3 日）の資料

- (1) 概要印刷物（当日全員配付）：各発表 1 ページの概要と説明文

日本人向け: 国内発表は和文。海外発表は 英文。
 海外参加者向け: 国内発表は、あれば英訳、なければ和文。海外発表は英文。

- (2) **USB 媒体論文集** (当日全員配付): 各発表の全提出物・翻訳作成物 [*印は有る場合のみ]
 国内発表: 概要(和)、スライド(和)、論文(和)*、概要(英)、スライド(英)*、論文(英)*
 海外発表: 概要(和)*、スライド(和)*、論文(和)*、概要(英)、スライド(英)、論文(英)*
 [注: すべて PDF 形式とする。改変禁止。他人へのファイルコピー禁止とする。]

- (3) **印刷論文集** (有料申込み制、当日配付): 上記(2)の一部 [*印は有る場合のみ]
 日本人向け: 国内発表: 概要(和)、スライド(和)、論文(和)*
 海外発表: 概要(英)、スライド(英)*、論文(英)*、スライド(和)*、論文(和)*
 海外参加者向け: 国内発表: 概要(英)、スライド(英)* [なければスライド(和)]、論文(英)*
 海外発表: 概要(英)、スライド(英)、論文(英)*
 ** 詳細は、別紙の項目一覧表を参照下さい。

- (4) **Web 掲載** (後日実施):
 掲載対象は、上記 (2) の全体とする。PDF 形式。
 TRIZ 協会が適当と考える Web サイトに掲載する。
 ただし、一般公開のページと、限定開示 (TRIZ 協会会員など) のページを使い分ける。
 掲載の時期は、シンポジウム終了の後の適当な時期とし、段階的な開示を考える。
 [** 掲載範囲や掲載時期の詳細は検討中です。決定後改めて公表いたします。]

注意: 上記(1)~(4)はすべて「コンファレンスの日 (第 2、第 3 日)」の発表分についての記述です。
 「セミナーの日(第 1 日)」の資料の扱いについては、現在調整中です。
 注意: 今回の会場は電源容量が小さいため、会場内では PC をあまり多数使用できない見込みです。

5.3.2 (A) セミナー (日本語) の資料 [追記: 2011. 6.10]

- (1) 概要印刷物 作成しない
 (2) **USB 媒体論文集** (当日全員配付): 各発表の全提出物・翻訳作成物 [*印は有る場合のみ]
 概要(和)、スライド(和)、論文(和)*、概要(英)、スライド(英)*、論文(英)*
 [注: すべて PDF 形式とする。改変禁止。他人へのファイルコピー禁止とする。]
 (3) **印刷論文集** (有料申込み制、当日配付): 上記(2)の一部 [*印は有る場合のみ]
 概要(和)、スライド(和)、論文(和)*
 (4) Web 掲載 (後日決定、実施する):

5.3.3 (B) セミナー (英語) の資料 [追記: 2011. 6.10]

- (1) 概要印刷物 作成しない
 (2) USB 媒体論文集 作成しない
 (3) **印刷論文集** (有料、参加者に当日配付): 上記(2)の一部 [*印は有る場合のみ]
 概要(英)、スライド(英)、論文(英)*、スライド(和)*
 注: スライドをできれば和訳したいと考えているが、未確定である。
 (4) Web 掲載: 実施しない

5.4 スライドなどの翻訳作業について

- ・ 発表の概要については、著者自身が英訳したものを提出してください。
注：著者の提出したものに対して、事務局から推敲の助言・支援をすることがあります。
- ・ オーラル発表（和英同時投影を希望する場合）のスライド、およびポスター紹介のスライドは、できるだけ著者が英訳下さい。
英訳が困難なときには、著者の申し出に基づき、事務局が英訳を支援するようにいたします。
（なお、著者提出の英訳が不十分で、事務局が英訳支援できない場合には、事前の調整により、和文スライドだけの投影のセッションに切り換えることがあります。）
- ・ オーラル発表で和文スライドのみの投影を申請して認められた場合には、英訳スライドは不必要です。また、事務局は英訳を行いません。
- ・ ポスター発表のスライドも、できるだけ著者が英訳くださるようお願いいたします。
英訳が困難なときには、提出なしで結構です。事務局は英訳を支援できません。
- ・ 海外参加者の**発表概要**、オーラル発表のスライド、ポスター紹介のスライド（**および、できればポスター発表の掲示スライド**）を、事務局が和訳する予定です。
- ・ 上記の事務局の英訳／和訳支援にご協力いただけるボランティアの方を求めています。
（「セミナーの日」の資料をも含めて、昨年までよりも英訳/和訳対象が広がってきておりますので、より多数の方にご協力をお願いしたいと思っております。）事務局までご連絡下さい。

6. 最終原稿の提出について 【注：詳細は 6 月に連絡します。一部修正の可能性あります。】

6 月 13 日(予定)のプログラム発表の後、以下の要領で最終原稿を提出下さい。（詳細は後日指定）
最終原稿の提出物は、5.3(2) 記載のように、すべて USB 媒体論文集(Proceedings) に収録します。

6.1 最終原稿の提出物（オーラル発表の場合） **（特別講演、テーマ講演も枚数制限以外は同様です）**

0. 提出電子メール（必須）： 「最終原稿提出」の趣旨を明記し、下記必要ファイルを添付下さい。
- A. 最終原稿提出書（必須）： 書式 A2 による。(発表申込み時の書式 A を修正して、後日指定します。)
 - 発表題目、著者（所属）、著者代表連絡先、発表形態、
 - 英訳の有無、英訳支援希望の有無、
 - 著作権の譲渡に関する確認事項、送付ファイル一覧。
- B. 和文概要（必須）： 書式 B による。MS Word .doc 形式。書式テンプレートを Web に掲載。
発表題目、著者（所属）(共著者を含む)、
200 字程度の概要、説明文（Extended Abstract、図表も可）、全体で A4 の 1 頁。
- C. 英文概要（必須）： 書式 C による。MS Word .doc 形式。書式テンプレートを Web に掲載。
英文の発表題目、著者（所属）(共著者を含む)、英文概要、
（できれば）説明文(Extended Abstract、図表も可) （全体で A4 1 頁）。
- D. 和文スライド（必須）： 書式指定なし。**最大 32 枚**。MS PowerPoint .ppt 形式
当日の発表で投影する。【注：特別講演、テーマ講演 a、同 c は最大 48 枚】
- E. 英訳スライド（和英同時投影を希望する場合は必須）：
和英同時投影セッションのとき：全スライドの英訳版。当日の発表で同時投影する。

著者が希望する場合には、著者の申し出に基づき、事務局が英訳支援することがある。
日本語セッションのとき： 不要。

F. 和文論文 (随意): 書式 F による。A4 2 段組 最大 8 ページ。MS Word .doc 形式。
(書式テンプレートを Web に掲載)

G. 英文論文 (随意): 書式 G による。A4 2 段組、最大 10 ページ。MS Word .doc 形式。
(書式テンプレートを Web に掲載)

6.2 最終原稿の提出物 (ポスター発表の場合)

0. 提出電子メール (必須): 「最終原稿提出」の旨を明記し、下記必要ファイルを添付下さい。

A. 最終原稿提出書: 書式 A3 による。(発表申込み時の書式 A を修正して、後日指定します。)
発表題目、著者 (所属)、著者代表連絡先、発表形態、
紹介スライドの英訳の有無、英訳支援希望の有無、ポスタースライドの英訳の有無、
著作権の譲渡に関する確認事項、送付ファイル一覧。

B. 和文概要 (必須): 書式 B による。MS Word .doc 形式。 書式テンプレートを Web に掲載。
発表題目、著者 (所属) (共著者を含む)、
200 字程度の概要、説明文 (Extended Abstract、図表も可)、全体で A4 の 1 頁。

C. 英文概要 (必須): 書式 C による。MS Word .doc 形式。 書式テンプレートを Web に掲載済み。
英文の発表題目、著者 (所属) (共著者を含む)、英文概要、
(できれば) 説明文 (Extended Abstract) (全体で A4 1 頁)。

D. 和文ポスタースライド (必須): 書式指定なし。最大 16 枚。MS PowerPoint .ppt 形式
当日の掲示発表に使い、また、Proceedings に印刷/収録する。

E. 英訳ポスタースライド(随意): 上記 D の英訳版。最大 16 枚。MS PowerPoint .ppt 形式
著者が英訳困難な場合には、提出なしで結構です。事務局の英訳支援はしない。

D2. 和文ポスター紹介スライド (必須): 書式指定なし。 2~4 枚。MS PowerPoint .ppt 形式
ポスター紹介セッションでの発表に使う。
上記 D の和文ポスタースライドの中の 2~4 枚でもよい (別途作ってもよい)。

E2. 英訳ポスター紹介スライド(必須): 上記 D2 の英訳版。2~4 枚。MS PowerPoint .ppt 形式
ポスター紹介セッションでの発表の際に同時投影する。
著者が英訳困難な場合には、申し出に基づき、事務局が英訳を支援する。

F. 和文論文 (随意): 書式 F による。A4 2 段組 最大 8 ページ。MS Word .doc 形式。
(書式テンプレートを Web に掲載)

G. 英文論文 (随意): 書式 G による。A4 2 段組、最大 10 ページ。MS Word .doc 形式。
(書式テンプレートを Web に掲載)

6.3 最終原稿の提出方法と締切

提出・問い合わせ先: プログラム委員会: 委員長: 中川 徹 (大阪学院大学)
副委員長: 小西 慶久 (創造開発イニシアチブ)

送付方法: 電子メールで文書ファイル添付 (MS Word または MS PowerPoint)、

宛て先: 電子メールアドレス: sympo@triz-japan.org

ただし、文書ファイルが合計 5 MB を越えるときには、
電子メールには、メッセージ、最終原稿提出書(A)、と概要(B、C) のみ添付し、
事務局が指定するサーバ (「宅ふぁいる便」など) にファイルを預託すること。

締め切り: **7月25日(月) 18:00**

お願い: 皆さまの最終原稿の提出後に、事務局では翻訳作業・編集作業など多くの作業を
極めて短期間で行う必要がありますので、上記の締切日をぜひ厳守下さい。

参加登録: 発表者の参加登録の締切日は、7月15日(金)18:00 です。
(この日が一般参加者の早割締切です。ぜひこの早割中に登録下さい。)

注意: 以下の場合には、プログラム委員会は、その発表申込みが取り下げられたものと判断し、
その発表をプログラムから削除し、Proceedings への掲載を取りやめることが
あります。ご承知おき下さい。
・ 最終原稿が締切日までに提出されなかった場合、
・ 参加登録が締切日までに行われなかった場合、
・ シンポジウム当日に著者 (または共著者) が出席・発表できないことが明らか
な場合。

スライド作成上の注意/お願い: (2011. 6.10)

- (1) スライドにはできるだけ大きな文字を使い、一枚に詰めすぎないこと。
- (2) 海外参加者にも、スライドを見て分かるように配慮下さい。
英訳スライドを投影していますが、「しゃべり」の部分の内容は海外参加者には
理解できませんので、スライドを見ただけで分かるように配慮下さい。
- (3) 印刷の論文集はモノクロにします。またこのとき、背景無しのオプションにします。
よって、この条件でも明瞭になるように配色に注意下さい。
例えば、箱の中が真っ黒になってテキストがつぶれてしまわないように。
また、濃色の背景を使うときは、上記条件で作成した PDF も合わせて提出下さい。
[注: 全員に渡す USB メモリでは、カラー版ですのでこの点の心配はありません。
それでも、読者がモノクロで印刷して読むことを想定してください。]

7. シンポジウム当日の発表スライドとポスタースライドについて

7.1 オーラル発表

- ・事務局が、和文スライド投影用パソコンと、英文スライド投影用パソコンを用意します。
(Windows XP/Vista/7、MS Office 2003-2007 搭載)
発表に特別なソフト(動画投影など)を使ったデモなどを行う場合には、発表者がパソコンを持参下さい。この場合に、デモ部分だけは和英同時投影できないことがあります。
- ・発表に使う PowerPoint ファイルを USB メモリなどで持参下さい。
発表当日の朝に各自のファイルを事務局のパソコンにインストール下さい。
事務局では念のために、著者が論文集用に提出したファイルを投影可能なように準備します。
- ・発表の際にスライドの一部を追加して発表することを、認めます。
ただし、これは一部の例外的な処置であることをご承知下さい。
(注: 提出された最終原稿はすべて、論文集(Proceedings) に収録・掲載いたします。
一部を追加して提示する場合には、当日に一部追加のスライドファイルを持参下さい。
なお、最終原稿の段階で大幅に伏せられているものは受理できません。)

7.2 ポスター発表の場合

(a) ポスター紹介の発表

- ・事務局が、和文スライド投影用パソコンと、英文スライド投影用パソコンを用意します。
- ・ポスター紹介用のスライドは、最終原稿の提出時に提出したものを 사용합니다。
事務局が予め用意しておき、多数の発表者がスムーズに発表できるようにします。
(当日の差し替えや追加はできません。)

(b) ポスター掲出用のプリント資料

- ・掲出するのに使うスライドのプリントを、当日必ず持参下さい。【要注意】
- ・このプリントが、印刷用に提出したものと(ごく)一部に異なることを認めます。
- ・プリント資料の準備とポスター掲出の作業については、5.2 節を参照下さい。

8. 準備組織と問い合わせ先

| | | |
|-------------------------|-------------|--------------------|
| NPO法人 日本TRIZ協会: | 理事長: | 林 利弘 (林技術士事務所) |
| 第7回日本TRIZ シンポジウム 実行委員長: | | 三原 祐治 (創造性工学研究所) |
| 同 | 実行委員 (事務局): | 堀田 政利 (創造開発イニシアチブ) |
| 同 | プログラム委員長: | 中川 徹 (大阪学院大学) |
| 同 | プログラム副委員長: | 小西 慶久 (創造開発イニシアチブ) |
| 同 | プログラム委員: | 澤口 学 (早稲田大学) |
| 同 | 同: | 有田 節男 (日立製作所) |
| 同 | 海外参加者対応担当: | 正木 敏明 (日東電工) |

問い合わせ用メールアドレス:

シンポジウム全体、参加登録関係: info@triz-japan.org
プログラムの発表関係: sympo@triz-japan.org

参照ホームページ:

日本 TRIZ 協会ホームページ: <http://www.triz-japan.org/>
『TRIZ ホームページ』: <http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/>

以上